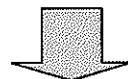


(仮称) 厚生産業会館整備検討委員会での検討のポイント (案)

建設候補地	ホール	公民館	保育及び飲食機能
■場所 ○利用者が使いやすい場所であるか。 ・駐車場は何台分確保するか。 (周辺の駐車場を使用することも考えるのか) ・交通のアクセス性 ・施設への出入りのしやすさ ○周辺への影響 ○施設配置の融通性 など ■その他 ○その他、委員会で必要と思われる項目。	■用途 ○どのような利用を想定するのか。 ・音楽系の専門ホールにするか。 ・ダンス系や軽運動系も利用できる多目的ホールにするか。 ■機能 ○客席は固定式とするか。可動式にするか。 ■規模 ○ホール機能の全体面積はどの程度必要か。 ○客席数は何席必要か。 ○客席が可動式の場合、収納時のフロア面積はどの程度必要か。 ■その他 ○その他、委員会で必要と思われる項目。	■用途・機能・規模 ○現在の公民館と女性サポートセンターと比べ、どのような機能を有する部屋が必要か。 ○それぞれの部屋の面積や部屋数はどの程度必要か。 ■その他 ○その他、委員会で必要と思われる項目。	■用途・機能 ○保育機能、飲食機能は必要か。 ■規模 ○保育機能はどの程度の面積が必要か。 ○飲食機能はどの程度の面積が必要か。 ■その他 ○その他、委員会で必要と思われる項目。



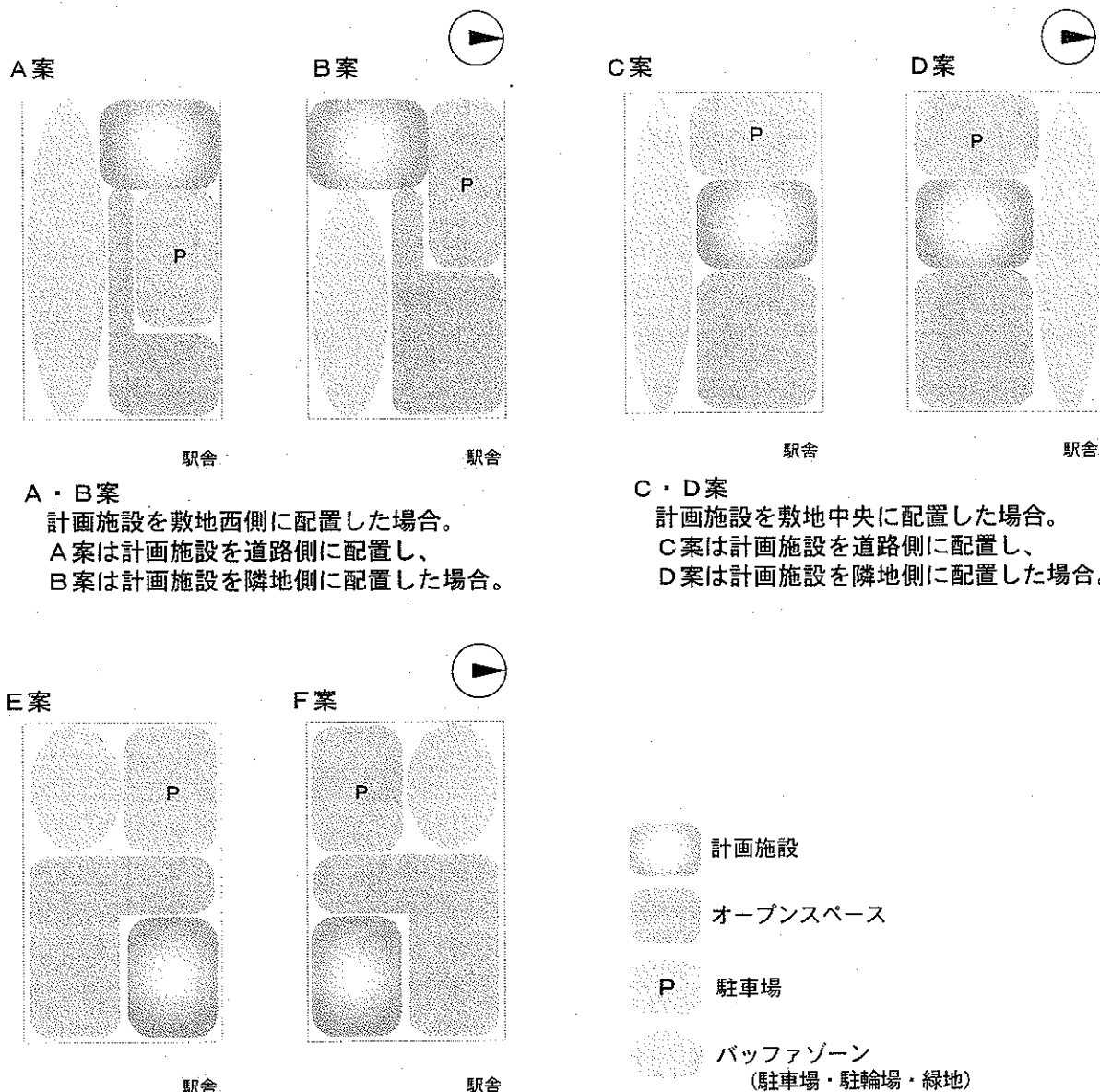
基本構想 (案)

春日地区集会施設 基本構想（案）

配置計画の検討		I
配置計画の比較		II
配置計画基本方針・施設ゾーニング計画		III
所要室面積根拠		IV
配置計画案		V
キープラン案		VI

配置計画の検討

敷地内構成ブロックとして、計画施設、駐車場、オープンスペース、バッファゾーンの4ブロックとし、それぞれの配置構成に関して検討を行う。ここで、バッファゾーンとは緩衝地帯の意味であるが、敷地内における残地（フリースペース）とし、駐車場、駐輪場もしくは緑地帯を想定している。計画施設と合わせて、配置計画重要な要素となるオープンスペースの配置について考えられる形態は、以下に示すA～F案の6通りとなる。



E・F案

計画施設を敷地東側に配置した場合。
E案は計画施設を道路側に配置し、
F案は計画施設を隣地側に配置した場合。

これらの配置案の内、A案、E案の計画施設を敷地角に配置する案は、周辺環境への圧迫感が強く、また、敷地利用上の利便性が損なわれるため不適である。
また、D案に関しては、オープンスペースと駅舎との空間的な連続性を創ることが困難である。
以上の点から、配置計画としてはB・C・F案の3案が考えられ、それぞれの計画に関して、更に比較検討を行う。

配置計画の比較

構成ブロックとの関係性、周辺との関係性、敷地内動線等に関して、配置計画B・C・F案についての比較検討を行う。

配置計画比較表

	B案		C案		F案	
配置図						
オープンスペースと駅前空間の関係	◎	オープンスペースが駅前面に広くあり一体的な駅前空間を形成出来る	◎	オープンスペースが駅前面に広くあり一体的な駅前空間を形成出来る	◎	オープンスペースが駅前面に広くあり一体的な駅前空間を形成出来る
計画施設と隣地の関係	◎	直接アクセスできる	△	ハッファゾーンを介する	◎	直接アクセスできる
オープンスペースと計画施設の関係	○	計画施設までの動線がやや長い	◎	計画施設と面的に接する	◎	計画施設と面的に接する
オープンスペースとハッファゾーンの関係	◎	接する面積割合が多い	△	接する面積割合が少ない	◎	接する面積割合が多い
周辺に対する計画施設の圧迫感	△	住宅地に面し、若干影響する	◎	敷地中央で圧迫感が少ない	○	前面が駅前公共スペースであり影響は小さい
観光客等駅利用者の施設の利便性 春日山観光拠点としてのPR性	△	敷地奥となり、駅から距離的に最も遠く利便性・PR性ともに比較的低い	○	オープンスペースを介すが比較的利用しやすく利便性・PR性共に比較的良好	◎	駅前であり利便性が高くPR性も高い
敷地内動線のフレキシビリティ	◎	オープンスペースを利用し敷地の通り抜けが出来る	△	動線確保が難しい	◎	オープンスペースを利用し敷地の通り抜けが出来る
JR信越本線からの計画施設のアイストップ効果	○	敷地奥であるが施設ファサードが大きく開き分かりやすい	△	施設ファサードが背面となり分かりづらい	◎	ファサードが駅側に面し非常に効果的である
ハッファゾーンの将来的な利用性	○	オープンスペースとの一体利用が可能	△	形状が細長く利用性が低い	◎	オープンスペースとの一体的な利用が可能駐車場としての利用性も高い
駐車場のアクセス	○	支障なし	○	支障なし	○	支障なし
総合評価	◎	良	△	可	◎	優

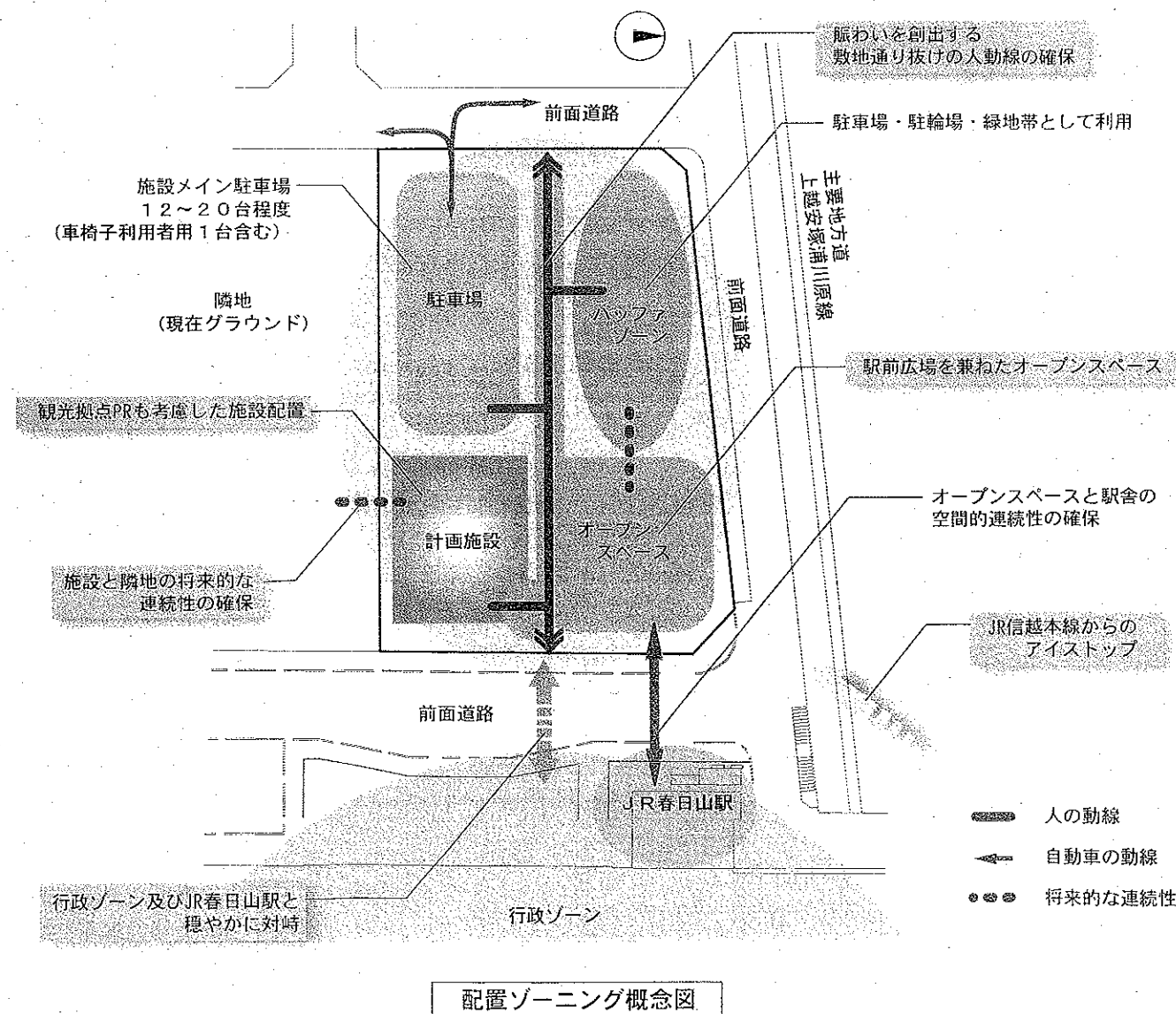
配置計画基本方針

各案の比較検討により、施設配置計画の基本計画案としてF案を推薦する。

F案の特徴

- ・ 駅利用客の利便性が高い施設配置である。
- ・ 春日山観光拠点としてPR効果の高い施設配置である。
- ・ オープンスペースは駅前広場としての空間を兼ねることが可能な配置である。
- ・ 敷地の通り抜け動線を確保出来る。
- ・ 施設と隣地との将来的な連続性を確保出来る。
- ・ 諸室配置上のフレキシビリティが高い。
- ・ JR信越本線からのアイストップ効果が高い施設配置である。

配置ゾーニング概念図



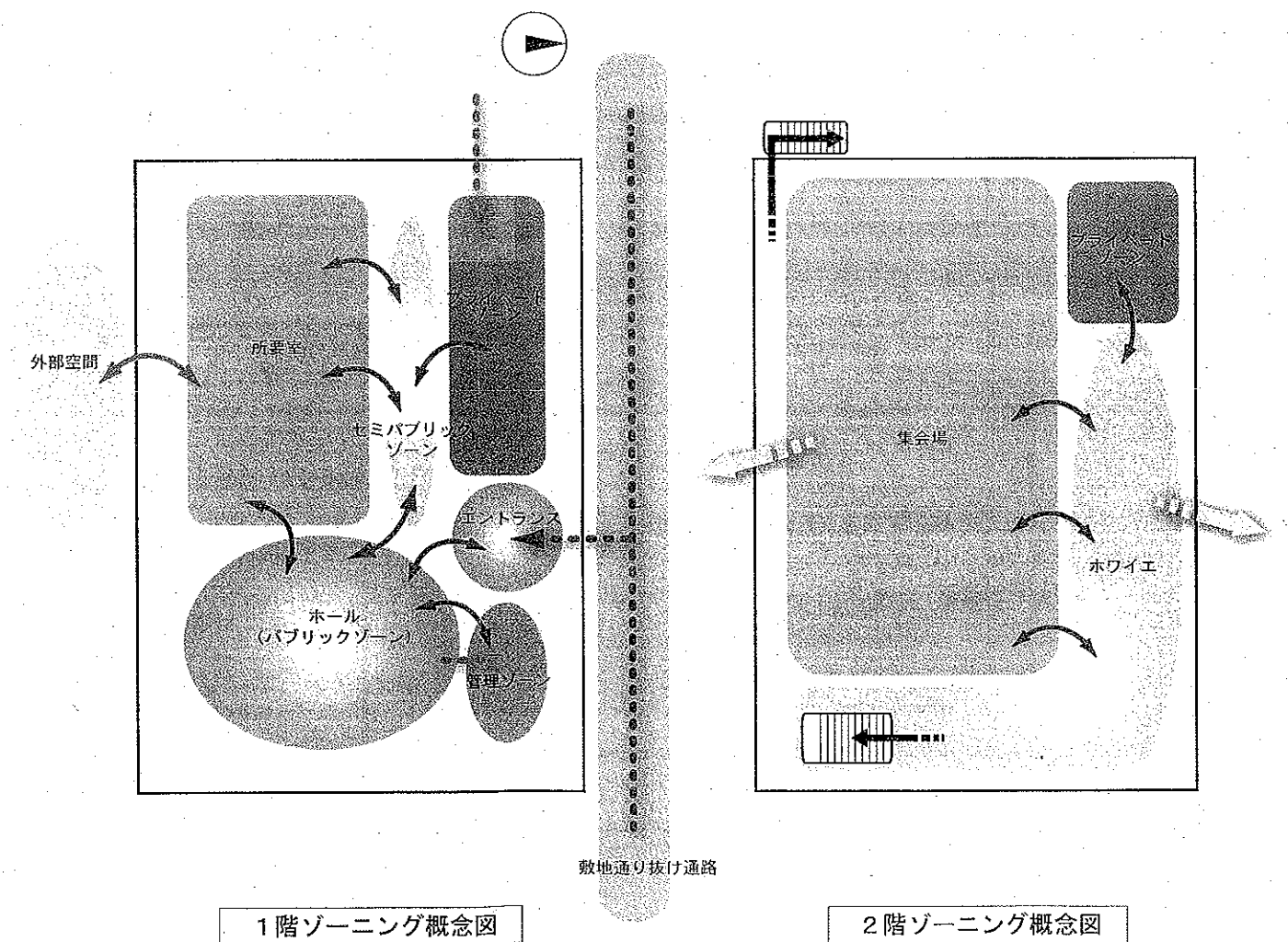
施設ゾーニング計画

次に計画集会施設のゾーニング計画を示す。

ゾーニングの基本方針

- ・ 床面積として多くを占める大ホールは2階へ配置する。
- ・ 1階エントランス部分にホールを配置し、各室への導入部とする。
- ・ ホールから連続する廊下・階段をセミパブリックゾーンとして各室へ連絡する。
- ・ 1階所要室は外部空間との連続性を持たせる。
- ・ 所要室は南面に配置する。
- ・ 法令上2方向避難口を確保する。

平面ゾーニング概念図



所要室面積根拠

次に各所要室の必要面積算定を行う。

面積算定表

所要室名	計画面積(m ²)	面積根拠-1	面積根拠-2	津有分館(m ²)	高士分館(m ²)	町内会長からの事前意見	
集会場 兼 会議室	240	300人×0.8m ²	ステージ・収納を除く 可動間仕切りにより3分割	200	105		津有分館に倣う・ステージ含む・拡大できるように・机椅子等の収納 床面防音・音響関係(吸音装置)・更衣室
会議室	45	30人×1.5m ²	椅子+テーブル(研修形式)	37	44		50~60人程度・机椅子は常設・洋室
和室(大)	60	30人×1.5m ² ※1	30畳(大小2室利用時) +踏込・押入を含む	35	20		20畳・机・2室
和室(小)				35	20		
調理実習室	50	20人×2.5m ² ※2	調理台4台	32	45		5台程度
ホール	150		適宜(観光案内コーナー・展示・交流・図書スペース)	60	85		ロビー(1.2階)
トイレ1	35		類似施設より適宜(多目的含む)※3	20	42		男女5穴・多目的便所
トイレ2	35		類似施設より適宜(多目的含む)※3	20	8		女子トイレにはベビーベッド設置
事務室	20	3人×6.0m ²	常駐3人程度想定	16	12		—
給湯室	10	2箇所×5m ²	適 宜	9	4+4	●	—
物入	20		適 宜	12	5		クローゼット(洋服かけ)・防災用具の物置
倉庫	50		適 宜	10	—		謙信公祭用倉庫(高床式を検討)
廊下等	280		必要共用スペース確保(延床面積の30%前後)	104	90		全館バリアフリー・エレベーター設置(車椅子利用可)
その他				茶室 15	工作室・自由広場 45・96		
計	995			605	625		

〈備考〉

※1:座卓会議形式の場合

※2:建築設計資料9 P20

※3:男3+2穴、女3穴、多1穴程度

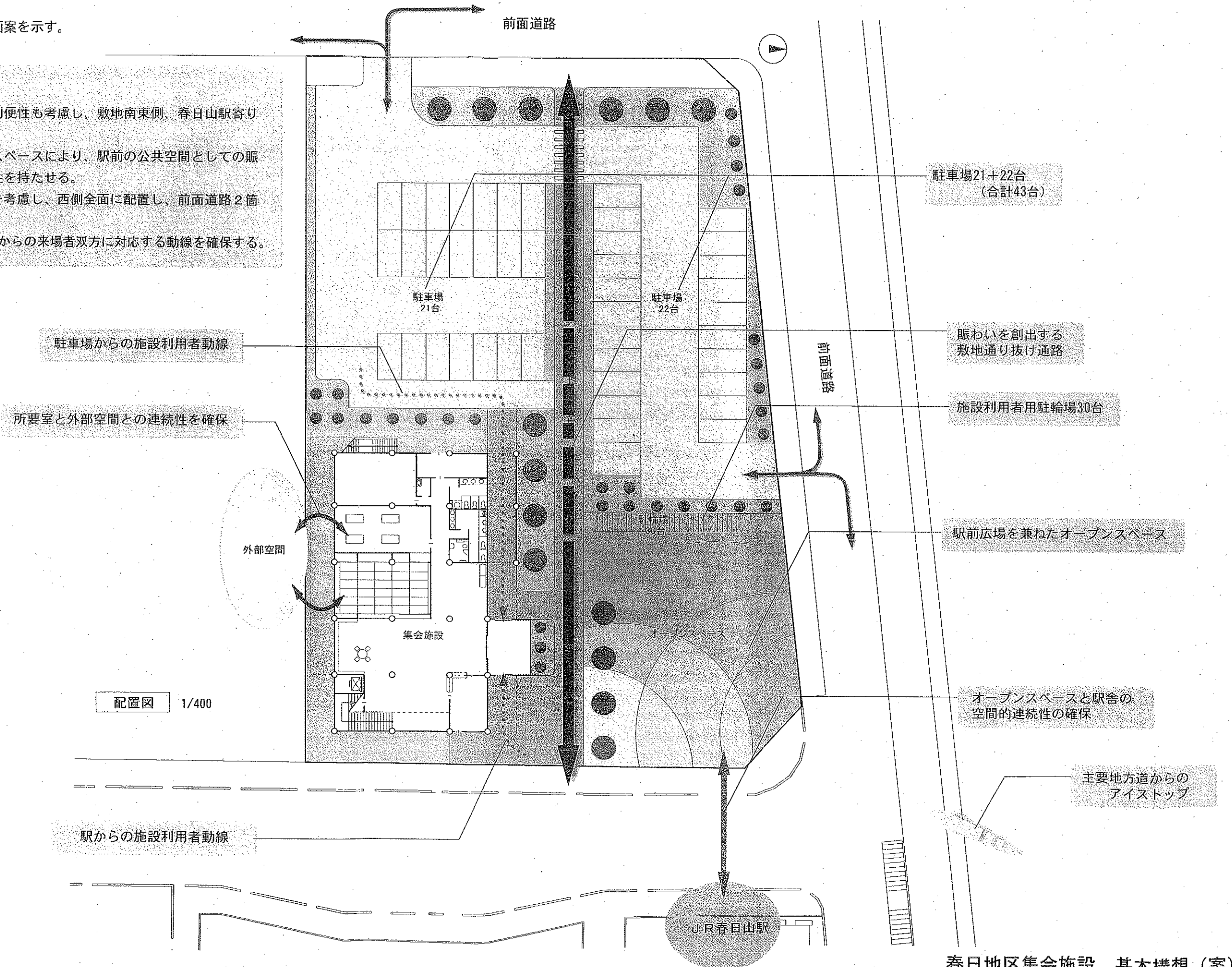
● : 町内会長より事前意見の無かった室

配置計画案

以下のコンセプトのもと配置計画案を示す。

配置計画案のコンセプト

- ・計画施設は駅利用の観光客の利便性も考慮し、敷地南東側、春日山駅寄りに配置する。
- ・敷地通り抜け通路とオープンスペースにより、駅前の公共空間としての賑わいを創出し、地域への開放性を持たせる。
- ・計43台の駐車場は除雪作業性を考慮し、西側全面に配置し、前面道路2箇所から進入を可能とする。
- ・駐車場からの来場者と春日山駅からの来場者双方に対応する動線を確保する。



キープラン案

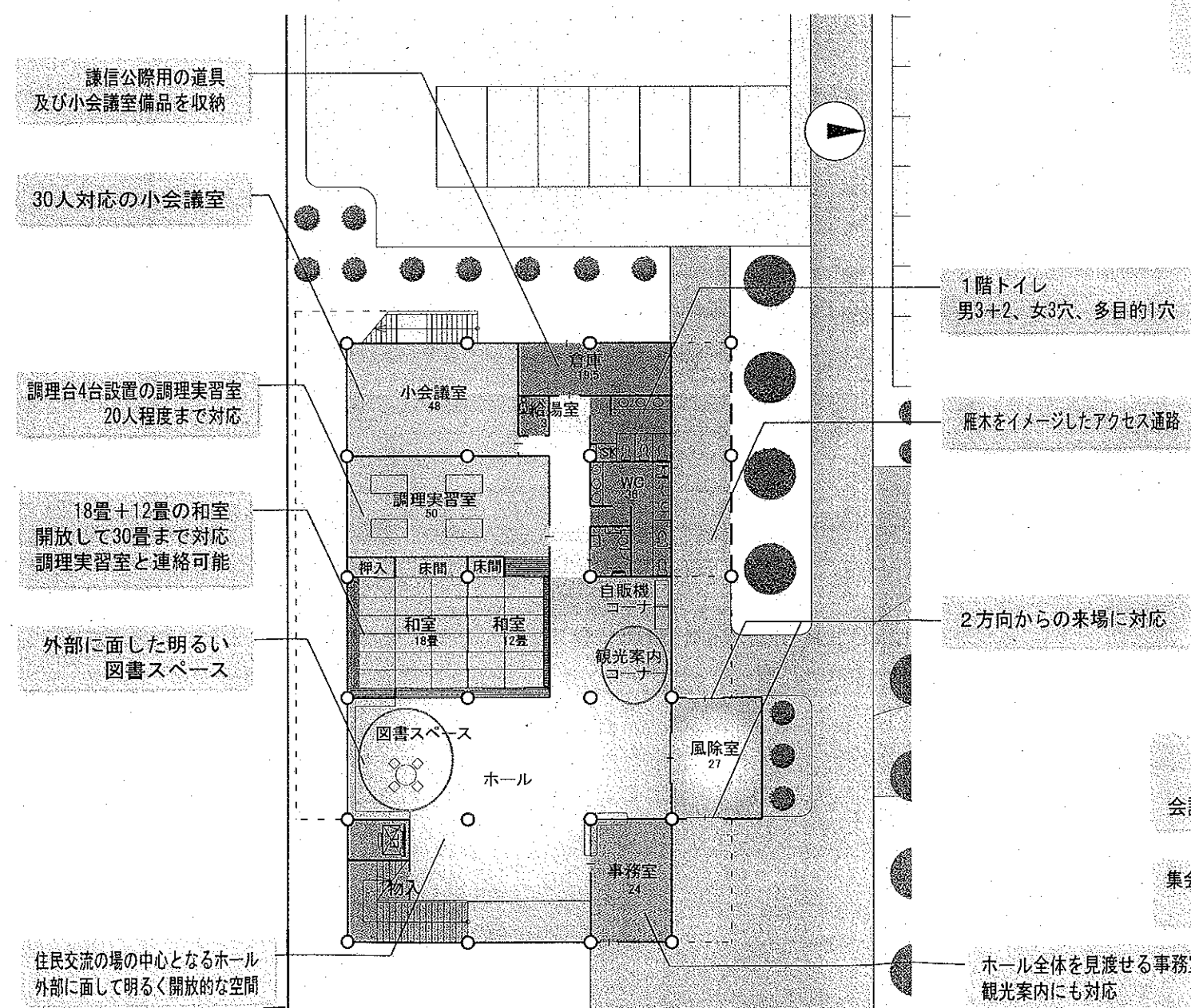
ゾーニング計画と面積算定結果をもとに、計画施設のキープラン案を示す。

法的条件

- ・客席床面積 $\geq 200\text{m}^2$ → 特殊建築物（集会場）・耐火建築物
- ・耐火構造の場合 床面積 $\leq 1500\text{m}^2$ 毎 → 防火区画必要
- ・耐火建築物の場合 客席 $\geq 400\text{m}^2$ → 内装制限
- ・用途集会場 → 2以上の直通階段必要
- ・排煙設備、非常照明など設置
- ・耐火建築物の場合 床面積 $\geq 1500\text{m}^2$ → 屋内消火栓必要
- ・準防火地域内、地上階数2以上、 $500\text{m}^2 < \text{床面積} \leq 1500\text{m}^2$ → 耐火もしくは準耐火建築物

RC造
1500 m^2 未満

※延べ床面積は建設コストを
考慮し1,000 m^2 以内とする。



1階キープランのコンセプト

- ・300人使用時を想定したゆとりのある風除室。また、二方向の動線に対応。
- ・住民交流の場の中心となる、明るく開放的なホールを設置。
- ・各所要室は南面に配置し、明るい室内空間を創造。
- ・ホール一部に外部に面した明るい図書コーナーを設置。和室との連携利用も可能なレイアウト。
- ・外部イベントとの共用を容易にするため、各室と外部空間と連続性を確保。
- ・各室の連携利用にフレキシブルに対応する所要室のレイアウト。

2階キープランのコンセプト

- ・300人収容の集会場は、可動間仕切りにより会議室としての利用も可能。
- ・外部に大きく面した明るく開放的なホワイエを設置。
- ・集会場から外部への開放性を高め、視界を広げるテラスを設置。

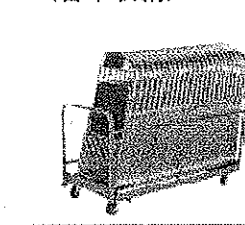
共通コンセプト

- ・各所バリアフリーに対応。エレベーターを設置。
- ・各部仕上げには地元木材を使用し、暖かみのある空間を演出。

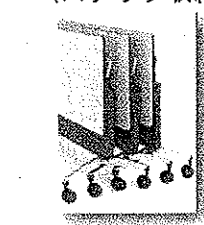
椅子収納イメージ
(ステージ下キャリア収納)



椅子収納イメージ
(台車収納)

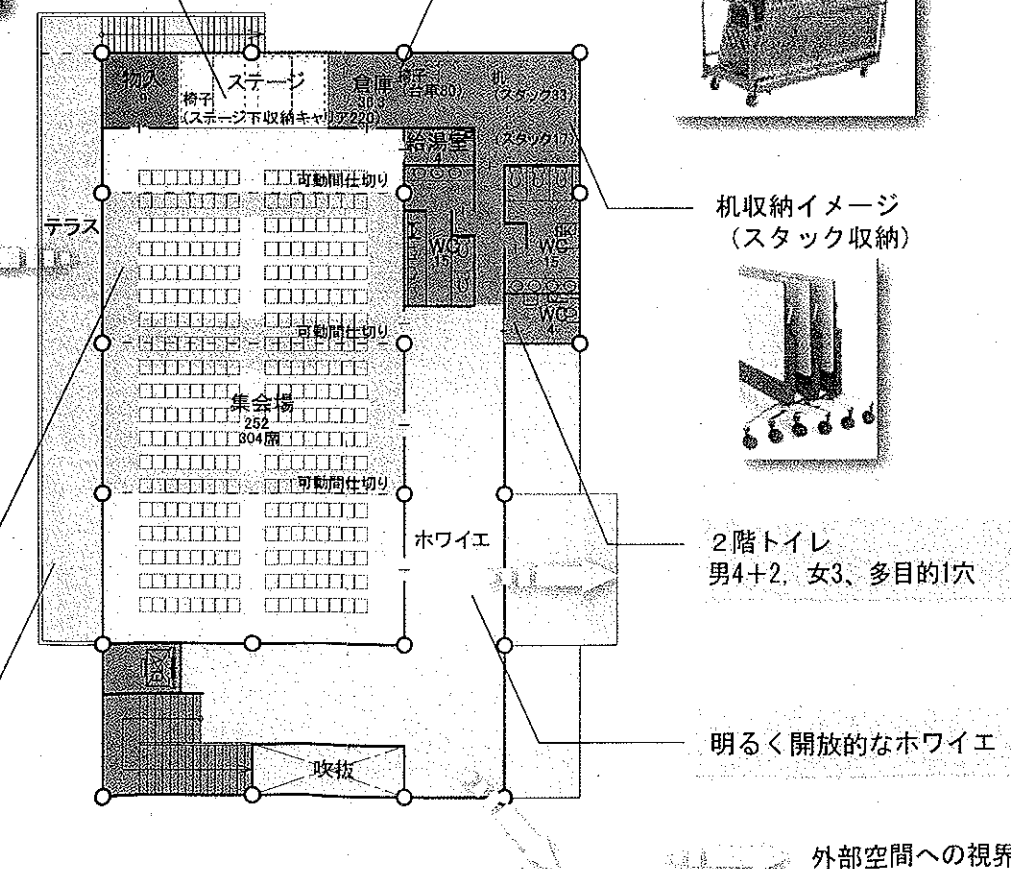


机収納イメージ
(スタック収納)



300人収容の集会場
可動間仕切りにより
会議室としての利用も可能

集会場から出入り出来るテラス
開放性を高め視界を確保



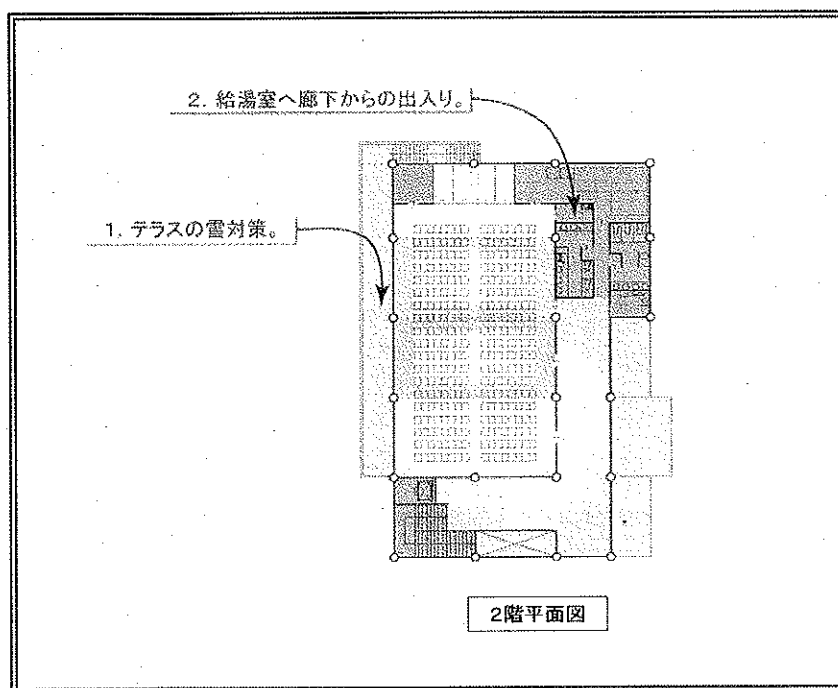
第5章 最終基本構想の作成

1. 基本構想（案）に対する意見

基本構想（案）に対して、各町内会長より以下の項目を除いて、概ね了解を頂いた。

①	テラス部は冬期の雪対策として、庇を検討する。
②	2階給湯室へは廊下からの出入りを可能とする。

意見のモデル



2. 最終基本構想の作成

基本構想（案）に対して出された上記2点の変更・検討項目をふまえて、最終基本構想を作成する。

次ページより最終キープランと参考立面図・参考イメージパース・概算工事費を示す。

キープラン

キープランのコンセプト 機能的で明るい内部空間

地域住民の交流の場として、また、春日山観光拠点として位置付けされる施設である。

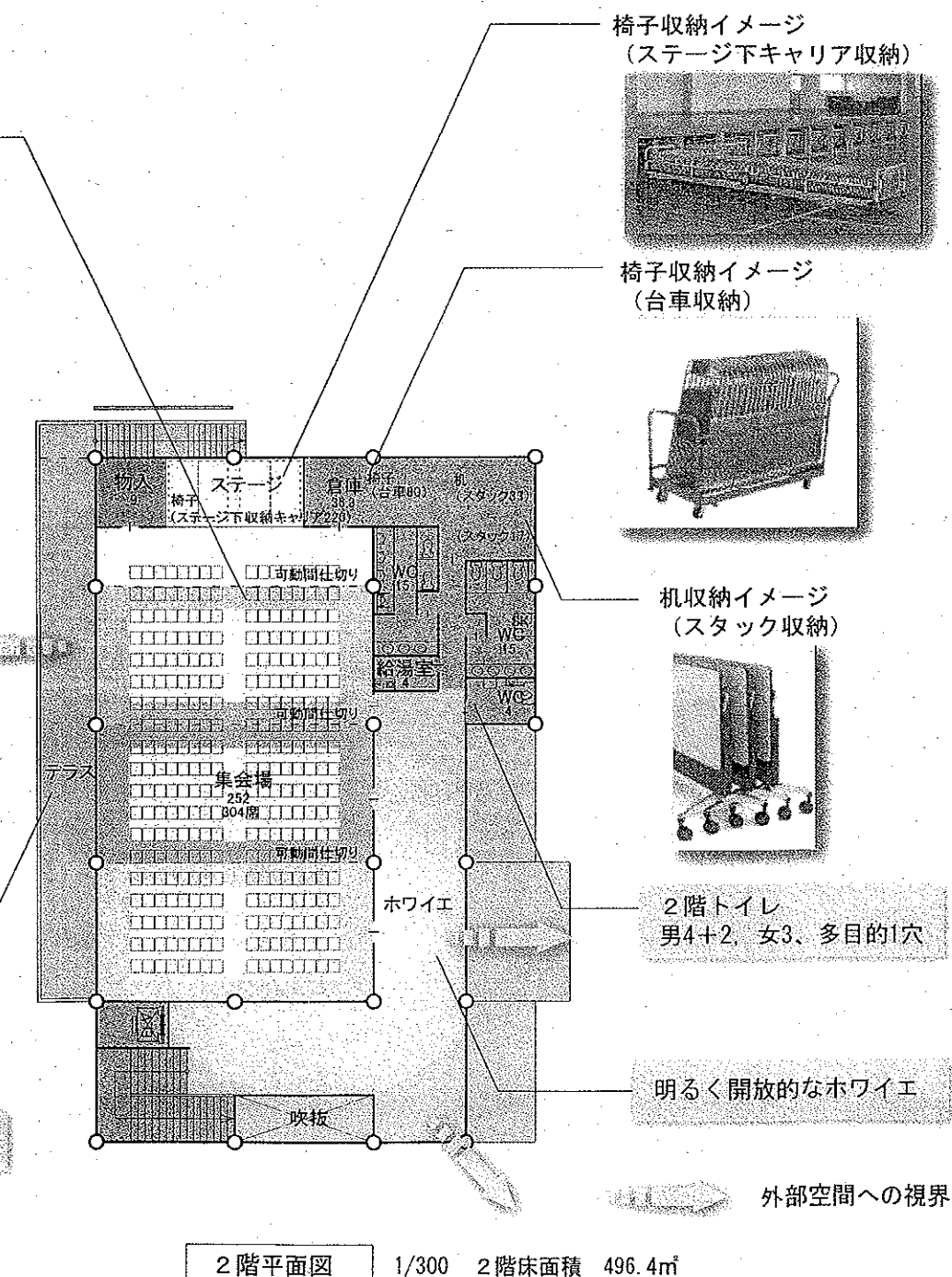
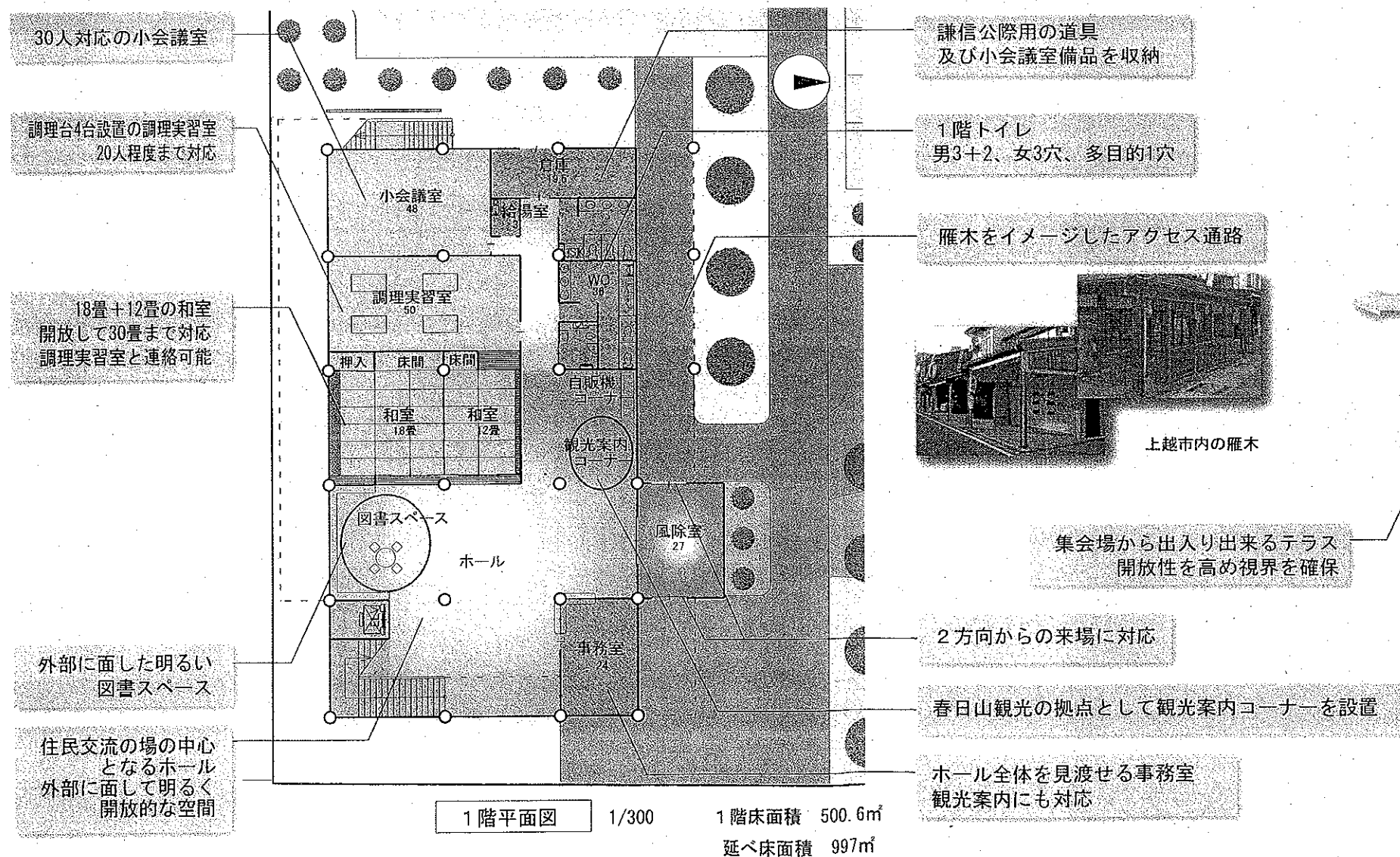
様々な利用形態に対応し、様々な世代の多くの人々が、利用しやすく親しみやすい空間の創造を目的として、機能的な諸室の配置と豊かで明るい内部空間を創出することをキープランのコンセプトとする。

1階キープランのコンセプト

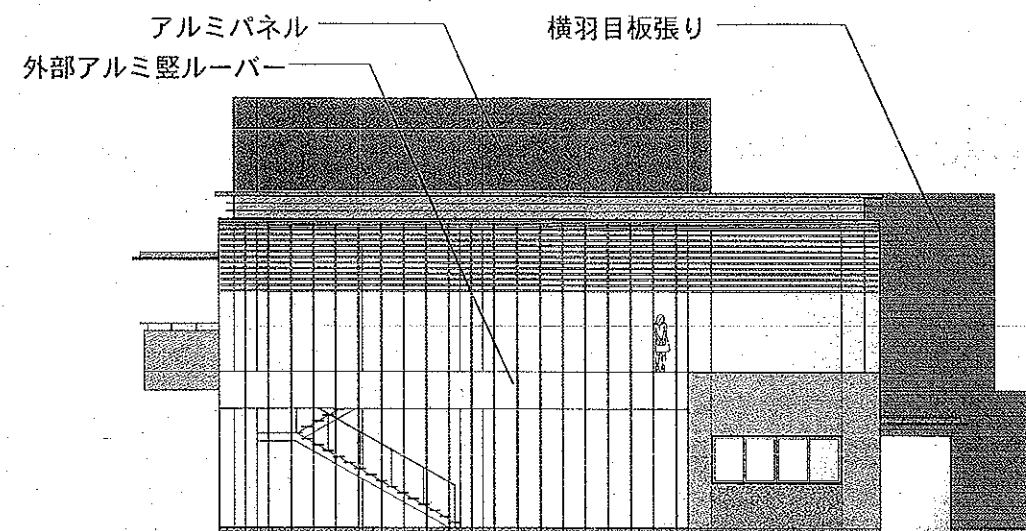
- ・300人使用時を想定したゆとりのある風除室。駐車場と駅からの二方向の動線に対応。
- ・住民交流の場の中心となる、明るく開放的なホールを設置。エントランス部には観光案内コーナーを設置。
- ・各所要室は南面に配置し、明るい室内空間を創造。
- ・ホール一部に外部に面した明るい図書コーナーを設置。和室との連携利用も可能なレイアウト。
- ・外部イベントとの共用を容易にするため、各室と外部空間と連続性を確保。
- ・各室の連携利用にフレキシブルに対応する所要室のレイアウト。
- ・各所バリアフリーに対応。エレベーターを設置。
- ・各部仕上げには地元木材を使用し、暖かみのある空間を演出。

2階キープランのコンセプト

- ・300人収容の集会場は、可動間仕切りにより会議室としての利用も可能。
- ・外部に大きく面した明るく開放的なホワイエを設置。
- ・集会場から外部への開放性を高め、視界を広げるテラスを設置。
- ・各所バリアフリーに対応。エレベーターを設置。
- ・各部仕上げには地元木材を使用し、暖かみのある空間を演出。

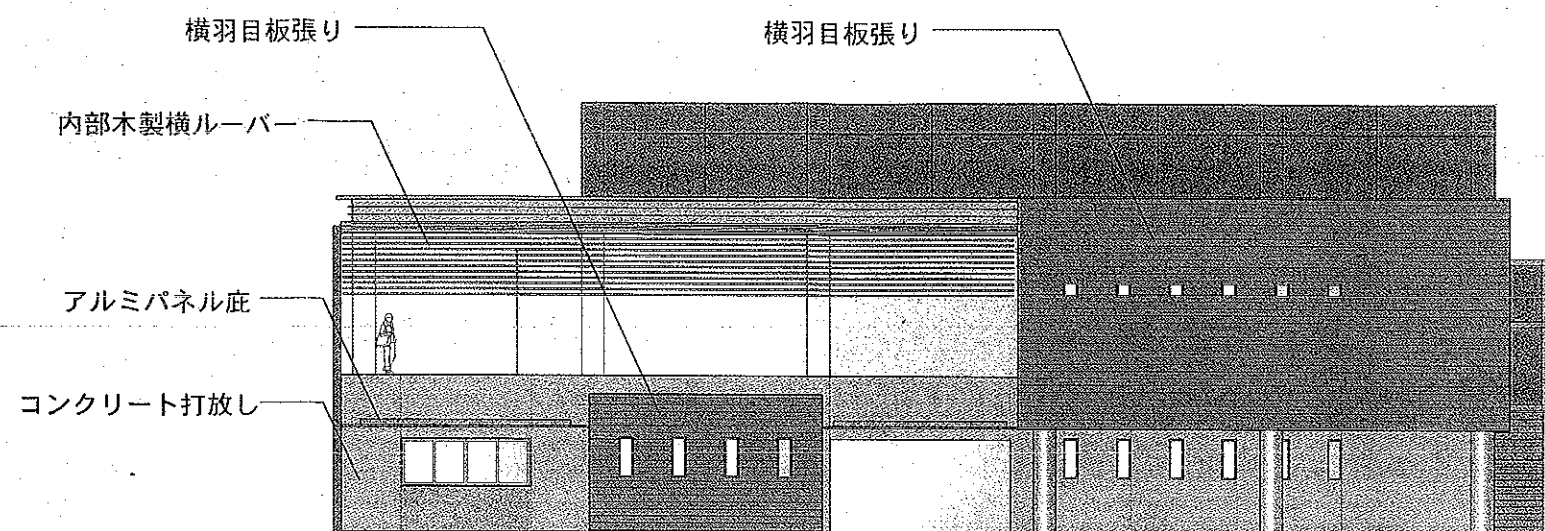


参考 立面図



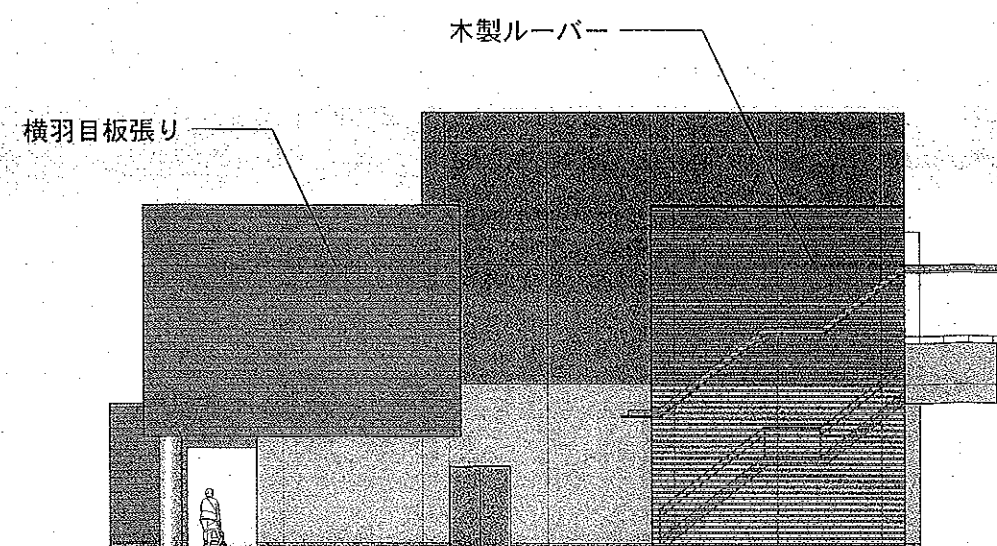
東立面図

1/200



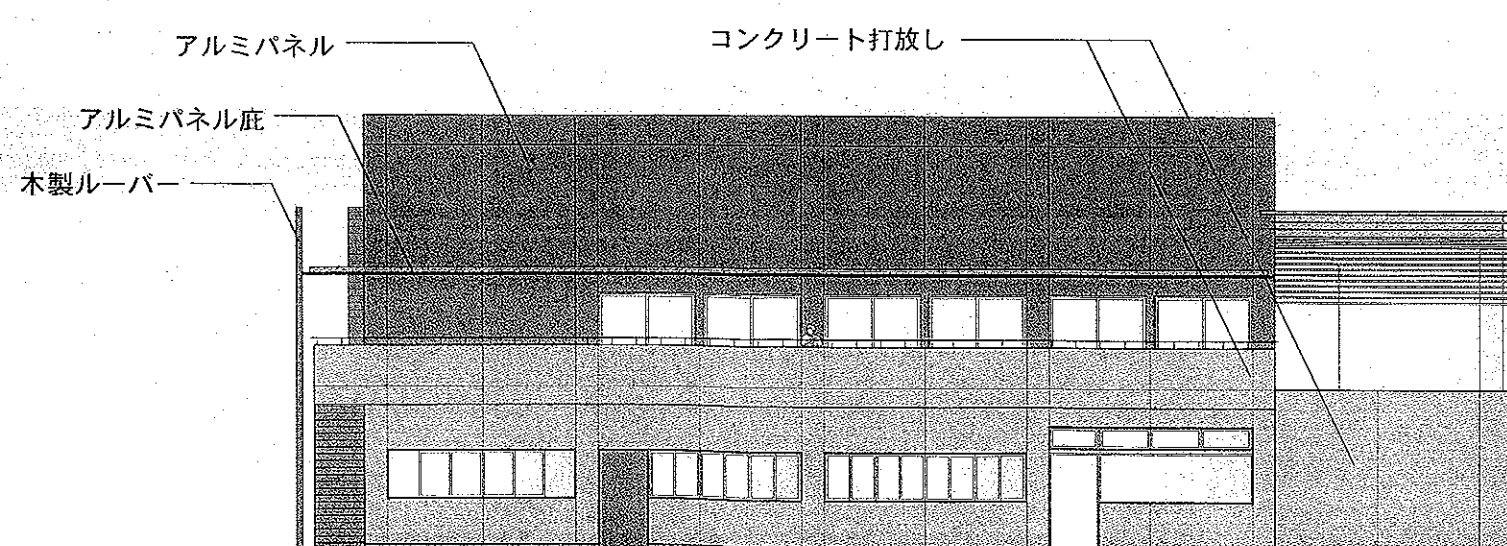
北立面図

1/200



西立面図

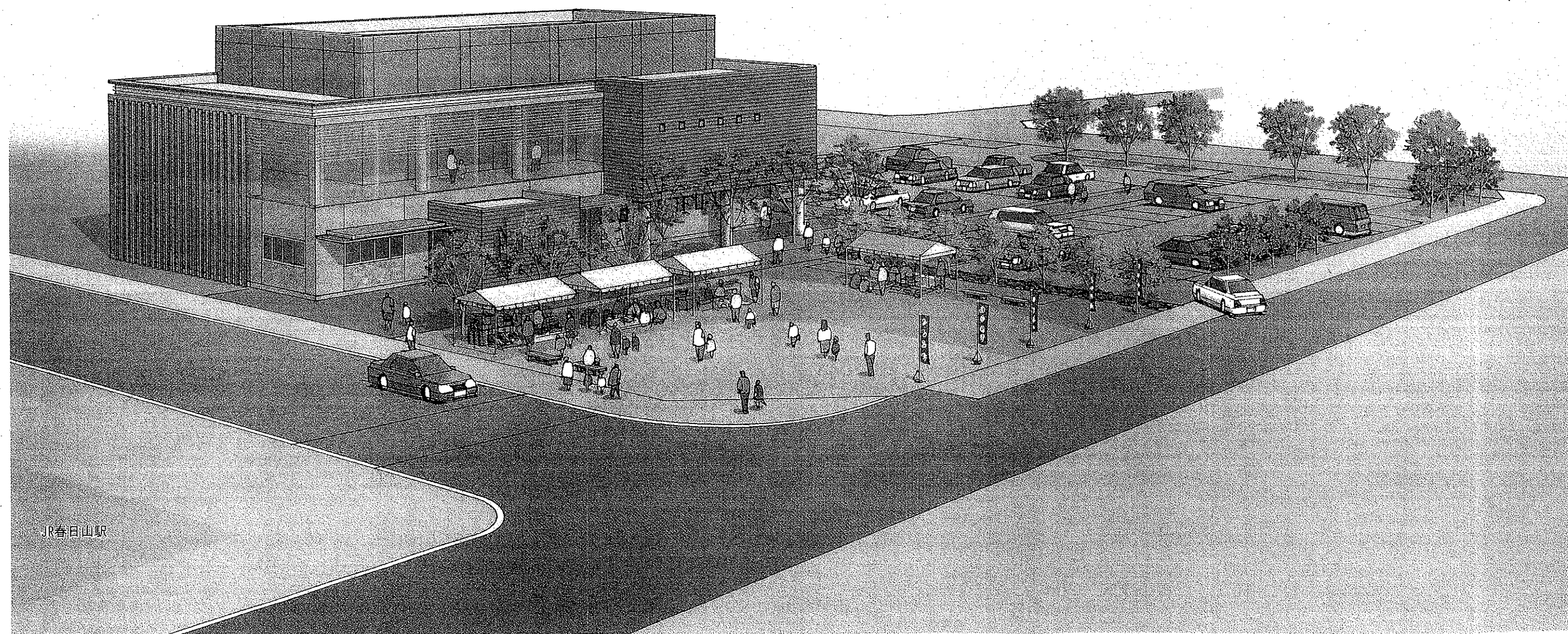
1/200



南立面図

1/200

参考 イメージパース



JR春日山駅